

先日の“クリスマス保護者会”には、お忙しい中、多くの皆様にお集り頂きまして心より感謝申し上げます。この日のために 何日も前から 一生懸命に準備をしてきたいるか組の子ども達は 何よりも嬉しかったことと思います。当日も 皆で力を合わせ、心をこめて一生懸命に作った リース型の ケチャップライスと ホワイトシチューを皆様が喜んで下さったことに ホットして 満面の笑顔を 互いに見せ合っていた姿がほんとうに微笑ましかったです。仲間としての意識が 日毎に強まり、年長組として頼もしく成長していることを 改めて感じました。いるか組の皆に 心から感謝します。クラフトの“クリスマス・ハーバリウム”も、手軽に作ることが出来たと好評でした。それぞれのお家に飾られ、クリスマスを迎える時を美しく演出していることでしょうか。今年も クリスマスを待つ備えの期間“Advent Week”の始まりに ささやかですが子ども達や皆様と共に 心温かなひと時を過ごしましたこと、ありがとうございました。

また 拙い語り手にも拘わりませず 耳を傾けてくださり、重ねて感謝申し上げます。今年も 年長組のページェントについてのエピソードを中心にお話させて頂きました。いよいよ 今週の火曜日から“クリスマスの出来事ごっこ”として スタートしました。

2017 年前、神様は そのひとり子であるイエス・キリストを 人として この世に誕生されました。当時の人間達の心は、神様の愛や光を見失い、渴ききっていました。争いや憎しみなどの悪が繰り返され、命をも 軽んじられてしまうような、荒みきった闇の世界でした。自然の営みの歯車も狂い、それは まるで 現代の社会と同じでした。けれども そんな中に在って、神様を信じていた僅かな人々は、何千年何百年も前から聖書に記されていた『救い主のお生まれ』『人々の希望の光の訪れ』の約束をずっと待ち望み、永い間ひたすら祈り続けていたのでした。神様は よく 大どんでん返しをされます。私達人間の 知識や理屈を遙かに超えたかたちで 御業を現わされることがありますが、イエス・キリストのお誕生こそが“大どんでん返し”そのものでした。信仰深い 大工のヨセフを 父、その婚約者であった処女（おとめ）マリアを母として選ばれました。そして 神様の言葉、聖なる力（聖霊）による受胎、マリアは自らの身に起こった不思議な出来事を 疑うことなく恐れることなく静かに受け入れました。出産の地は二人が暮らしていたナザレではなく、住民登録のため里帰りをした田舎町、ヨセフの先祖であるイスラエル建国のダビデ王の出身地であったベツレヘムでした。しかしそこは同じ目的で帰郷していた大勢の人々で溢れ、二人が休む部屋はどこにも無く、最後の最後に見つかった場所は、町はずれの小さな小さな馬小屋だったのでした。その夜遅く、天使のお告げのとおり、男の赤ちゃんが誕生しました。その様子を静かに見守ったのは 両親のヨセフとマリア、共に旅をしたロバと 馬小屋の動物達でした。そしてその知らせを誰より先に受けたのは、戸籍に登録する必要のない存在であった教養も知識も家もない、人々から疎まれていた野宿をしていた貧しい羊飼達でした。神様の言葉を信じた純粋な心の彼らは迷うことなく喜び すぐにお祝いに行きました。人々は、救い主の訪れを信じて待ち望んでいながらも、このようなあわただしい時に、まさかこんな形で ひっそりと神様の約束が成就されているとは誰一人として予測をしていませんでした。人の目には偶然に見える出来事が、神様にとっての必然でした。イエス・キリストは、見捨てられた者、見失われた存在のためにこそ生まれてきました。どんな立場の者でも、平等に会いに来られる馬小屋という場所に降りてこられました。これこそが クリスマスの出来事を通して私達に示された神様の愛のメッセージです。今年のクリスマスが 神様の平和と希望の光で 満たされますように・・・（石田 記）
「苦しみのあったところに闇がなくなる。闇の中を歩んでいた民は大きな光を見た。（イザヤ9：1）」